

災害時 宗教者の支援は

岡山 菅波AMD A代表講演



宗教者に求められる災害時の支援について話す菅波代表

県内の僧侶や神職らでつくる人道援助宗教NGOネットワーク

いった分野での支援の在り方などを考えた。

(RNN)は28日、宗教者による災害支援について考える講座を黒住教本部(岡山市北区尾上)で開き、被災地での鎮魂や慰霊と

RNNの関係者ら約70人が参加。国際医療ボランティア・AMD A(同伊福町)の菅波茂代表が「災害時に被災地で必要とされる宗

教者とは」と題し講演を話し合った。
被災した岩手県での活動に県内の僧侶が参加したことを挙げ、「死を迎えようとしている人の心を落ち着かせたり、遺族に生きる喜びを教える宗教者が被災地には絶対に必要」と話した。

寺や神社が緊急避難所に利用されたことも紹介。近い将来の発生が懸念される東海・東南海・南海地震に備え、食料や飲料水の確保など避難者をどう受け入れるかについても考えるよう勧めた。

菅波代表や僧侶、神職らによるシンポジウムでは円滑な災害支援に向けて意見交換。宗教や宗派を超えて情報交換や役割分担して非常時に備えることなど